

松禪寺報

第94号

<https://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 令和3年7月25日

石室山 松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com



法の花
蓮は汚泥おていより出でて汚泥おていに染まらず

寺の池に咲く睡蓮

相変わらずコロナ禍で暮らしにいろいろな制限が続いています。旅行もできず、多くの人々が集まることも憚られます。マスクをせずに買い物をするうものなら、着用を強いられます。天候だけではなく様々な制限が、より一層暑く感じる日々が続いています。

そんななか、明け方の池には清涼な風を柔らかに感じる事ができます。よく見れば、一輪の睡蓮が徐々に花を開いています。多弁の花を咲かせる蓮は、その美しさから、極楽浄土の花と言われています。仏教の教えでは、煩惱のただなかにある私たちも、実は、泥のなかにあつて泥に汚れず、清らかな花を咲かせる蓮のような菩提の種を、一人一人の心のなかに隠し持っていると言っています。

蓮の花が開くとき、実際には音を立っていないようですが、極楽浄土の蓮の台うてなに生まれ変わることを念じた古人は、そこに、無音の音を観じたのにちがいありません。

涼やかな微笑みで、私たちに語りかけるご先祖の各霊位を、皆さんそれぞれの心の蓮に観じつつ、妙なる法の音の響きに、今しばらく耳を傾けていきたいものです。

薬師祭法要

平和復興祈願と病疫退散を祈りました



毎年恒例の薬師祭（栗尾ふるさと委員会主催）ですが、終息の兆しも見えない新型コロナウイルス感染症のため、昨年に続き今年も餅まきやコンサートなどのイベントを中止いたしました。しかし、法要だけは勤めなければならず、7月11日（日）午前10時より、約15名の参拝のもと住職が執り行いました。法要は栗尾薬師如来の功德により心身安寧、福寿増長を祈願すると共に、『卻瘟神呪』^{きやくおんじんしゅ}という疫病退散を祈る際に読経する呪文を参拝者全員で唱え、新型コロナウイルスの速やかな終息を祈りました。

毎年この時期、集中豪雨の被害が各地で発生していますが、今年も熱海で大きな土石流被害が発生、多くの尊い生命が奪われてしまいました。現地に赴いての具体的な支援はできずとも、ご冥福と一日も早く日常を取り戻していただくことを祈ることも大切です。「明日は我が身」を、忘れてはなりません。



▲花園会長の挨拶で草刈りなどの作業開始



▲雨の心配もありましたが無事作業できました

第一回境内掃除に13名参加
ありがとうございました

評議員総会で承認可決された本年度の事業の内、第1回の境内掃除を5月16日（日曜日）、午前8時から約2時間にわたって汗を流しました。今回の参加対象地域は、栗尾村内の清滝、本城、柴地の評議員より3名、佐田区、久畑区の評議員3名、久畑より有志1名、総代6名、計13名で草刈りなどを中心に境内の美化に努めました。初夏を迎えて草もよく延びており、お陰様で気持ちのよい境内となりました。第2回の境内掃除は、7月25日（日）午前8時開始です。よろしくお願いいたします。

お盆とは

毎年8月13日から15日までは、お盆です。ご先祖や亡くなった近き人の霊を供養しようと、遠くからも故郷のお寺とお墓に、お参りにいらつしやいます。

お盆は、どんな変貌する日本にあつて、昔からあまり変わらない生活習慣ですね。

お盆とは、正式には「盂蘭盆うらぼん」と言います。もともとは、古いインドの言葉で「ウランバナ」という語が、漢字に音写されたものです。ウランバナとは「さかさに吊された激しい苦しみ」という意味です。ですから漢字で「倒懸とうけん」とも書かれます。さかさまに吊された苦しみを取り除きたいという行いが、お盆の行事なのです。

『盂蘭盆経』というお経によりますと、お釈迦様のお弟子で「神通第一」と言われる目連もくれんさまが、ある日、亡くなった自分のお母さんがどうしているのだからと知りたくて、自分の神通力で透視してみました。なんと、お母さんは餓鬼道に落ちて、苦しみにあえいでいました。食



目連

「目連よ、おまえのお母さんは決して悪い人じゃなかった。とてもやさしい人だった。しかし、おまえにだけやさしくて、ほかの子どもにはやさしくなかった。」



べ物や水があつという間に燃えてしまい、なにも口に入らないのです。びっくりした目連さまは、お釈迦さまのところへ行き、どうすれば母親を救えるか相談しました。すると、お釈迦さまはこうおっしゃいました。

平等じゃなかったのだよ。余りにも自分勝手、餓鬼道に落ちてしまったのだよ。」

「ああ…」

目連さまは、なげき悲しみます。

すると、お釈迦さまは、

「救つてあげたければ、7月15日はお坊さんたちの修行の終わる日、その日に平等に食事などをさしあげ、供養することだ。」

とおっしゃいました。

その通りに、目連さまがすると、お母さんは餓鬼の苦しみから救われたということですよ。

さらにお釈迦さまは、

「7月15日に、仏さまや僧にこのように丁寧に供養すれば、その功德によって、多くの先祖がさかさ吊りの苦しみから救われ、今生きている人も幸福を得ることができるだろう」と

とお説きにいられたのです。

これが、お盆の始まりです。お盆の行事は、関西地方では主に8月に行われます。地域によつて行事の習慣が違いますが、ご先祖の霊をお迎えし、供養さしあげることに変わります。

自分のいのちを授けてくださったご先祖を大切にし、いのちのありがたさを見つめる行事がお盆です。そして、お釈迦さまがおっしゃった「平等」という言葉を、かみしめてみたいと思います。

お せ が き

8月7日（土曜日）
午前10時より開式



施餓鬼会は、お釈迦様の十代弟子のお一人、阿難尊者の故事により、飲食供養の功德により亡者を救う行事として起こったものです。「餓鬼に施す」と書きますが、餓鬼とは六道（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上道）のひとつで、苦しみの世界であり、食べ物がない飢えの世界なのです。しかも、餓鬼は自分の力で餓鬼世界から抜け出すことができないため、施餓鬼供養がその救いの道とされています。有縁はもとより、無縁の衆生に対しても供養する法要であり、自分自身に与えられた生命に感謝する意味合いもあり

令和3年度 施餓鬼会法要日程

順番	目安時間	施主	住所
1	10:00	山門施餓鬼、添施餓鬼	
2	10:15	久世 善樹 家	佐々木
3	10:30	中村 博信 家	佐 田
4	10:45	西 幸信 家	佐々木
5	11:00	樫本 脩 家	佐々木
6	11:15	渡邊 一義 家	南 尾
7	11:30	樫本 昌博 家	佐々木
8	11:45	鶏魂供養	栗 尾

※必ず「目安時間」より早めにお参りください

今年も多数の和尚様により法要を執り行います。施餓鬼はもともと初盆など特定の霊を供養するだけのものではなく、ご先祖様を始め、志す精霊にご供養することによって施主皆様の現世安穩が得られるといわれています。なお、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「三密」（密閉、密集、密接）を避けるために、1軒1座でお勤めいたしますと共に、できる限り少人数でお参りいただければ幸いです。なお、施餓鬼会の日程と今年初盆を迎えられる方は下表のとおりです。

令和3年度 棚経の日程

棚経実施日	地 域
8月8日（日）	（遠方）
8月9日（月）	清滝→本城→柴地→山根→貝田
8月10日（火）	久畑→石原→佐田→大貝→平田→佐々木
8月11日（水）	南尾→出石町（午前）
8月12日（木）	豊岡市→福知山市→岩滝
8月13日（金）	西谷

まもなくお盆を迎えます。お盆は、普段から何も催促なさらないご先祖さまとの語らいの時でもあります。8月13日が迎え火にあたり、16日が送り火です。お墓をきれいに掃除して、ご家庭では仏壇を丹念に掃除して、お花、ろうそく、お線香、果物、お菓子、季節の野菜などを供えます。お寺からは、8月8日から13日まで、棚経といつて各檀家を廻って回向いたします。下表の日程で参る予定ですが、諸般の都合から急遽変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。朝から廻りはじめますが、後半は午後になります。